協同学習と多読による自律的な学習者の育成：レポートに見られるメタ認知能力

Developing student autonomy and metacognitive ability through collaborative learning and extensive reading

同志社大学　脇 田 里 子　　Riko WAKITA, Doshisha University　　e-mail: oriko@cup.com

1　背景

多文化共生社会における外国語教育の捉え方の見直し（バイラム，2015）
「言語能力の機能とその使い方」　＋
「異文化能力などを含めた広い枠組み」

学生（主に東アジア出身）が提出するレポートの問題点
・自分の意見があまり書かれていない。引用が長い。
・引用なのか、自分の意見なのか、はっきりしない。

→日本語言語能力、レポート執筆の知識の問題ではない。
「異文化能力などを含めた広い枠組み」の問題か？

OECD PISA 2018　“Reading Literacy”
「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと」
（国立教育政策研究所，2019）

PISA 2018　「グローバル・コンピテンス」
①知識：世界や他の文化についての知識
②認知スキル:世界を理解し行動するための認知的スキル
③社会的スキルと態度：異質な他者の思考，信念，感情を理解する社会・感情的スキルや態度

→ これまでの資料・本の「読み」は学習者に任せたまま
→ 情報のインプットからアウトプット過程で、
「認知スキル」「社会スキル」の支援

2　目的

「異文化能力などを含めた広い枠組み」　→
PISA2018 グローバル・コンピテンシー
「認知スキル」「社会的スキルと態度」とみなす

対象：日本で学ぶ人文科学系の学部留学生
方法：LTD話し合い学習法（社会的スキルと態度）と読書活動支援（認知スキル）を通じて
目的：学習者が自分の体験と関連づけ、クリティカルに読み、自分事としてレポート作成する。

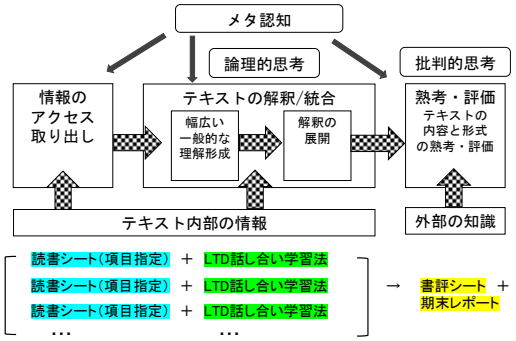


図1　PISAの読解リテラシーと思考力

LTD話し合い学習法（安永・須藤，2014）

LTD（Learning Through Discussion）協同学習の精神
「ともに心と力を合わせて、自分と仲間のために学ぶ。仲間と交流して、共に新しいものを創り上げる。」

LTD ＝「個人思考　予習」＋「集団思考　ミーティング」

段階	ステップ	活動内容	配分時間
導入	Step1	雰囲気づくり	3分
理解	Step2	言葉の理解	3分
	Step3	主張の理解	6分
	Step4	話題の理解	12分
関連づけ	Step5	知識との関連づけ	15分
	Step6	自己との関連づけ	12分
評価	Step7	課題文の評価	3分
準備	Step8	振り返り	6分
			（合計60分）

読書シートに反映

図2　ＬＴＤ過程プラン（ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ用）

表１　PISA,LTD,読書シート項目の対応

	PISA Reading Literacy	LTD 過程プラン	読書シート項目
事実	1 情報を探し出す ・情報にアクセスし、取り出す ・関連するテキストを探索し、選び出す	Step2 言葉の理解	① 印象に残った箇所を引用する。 ② キーワード、難しい言葉など
理解/解釈	2 理解する ・字句の意味を理解する ・統合し、推論を創出する	Step3 主張の理解 Step4 話題の理解	③ ①を自分の言葉で言い換え
意見	3 評価し、熟考する ・質と信憑性を評価する ・内容と形式について熟考する ・矛盾を見つけて対処する	Step5 知識との関連づけ Step6 自己との関連づけ Step7 課題文の評価	④ 経験や知識と結びつけ ⑤ LTDで話し合ったこと

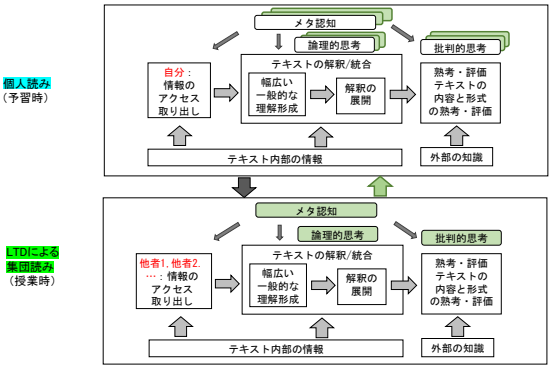


図3　リーディングリテラシーと
ＬＴＤ過程プラン（ﾐｰﾃｨﾝｸﾞ用）

3　方法

対象授業：日本の某大学人文系学部「日本語コミュニケーション」

授業期間：2019年度秋学期（2019年9月～2020年1月、90分×15回）

対象学生：留学生 2年生　27名
（東アジア　24名、東南アジア　2名、欧州 1名）

授業形態：対面

授業プラットフォーム：Microsoft社　ClassOneNote

授業展開：講義（約60分）、読書によるLTD（約30分）

1グループ3名、計9グループ。1冊の本は約1か月で読む。

授業期間の前半と後半に各1冊を読む。

後半は異なるグループで、前半と異なる本を読む。

テーマ：日本語学、コミュニケーション、言語社会、言語文化

教員役割：LTD学習法の紹介、テーマごとの選書リスト作成、グループ分け、読書シート作成、読書シート提出状況の確認　＊LTDには基本的に関与しない。

LTD活動：1　選書リストを中心に、読む本を決める。
（1回目）2　選書する。
3　1か月で1冊を読む計画を立てる。
〔課外読書、「読書ノート」作成〕
（2～5回）4「読書シート」を示し、意見交換する。
5「読書シート」に話し合ったことをまとめる。

Output：1　2冊の書評シート（項目指定、約800字以上）
2　期末レポート（読んだ本に関して、2000字以上）
＊ 書評もレポートも講義Web上で公開する。

期末レポートの評価方法
①書式・字数などの提出条件　20%
②日本語の表現・文法　20%
③内容　60%
自分の言葉で説明する。
事実と意見を区別する。
自分の経験や知識と結びつけて述べる。
論理的思考：証拠に基づいて結論づける。
批判的思考：証拠に基づく論理的で偏りのない内省的思考

4　結果

LTDで読んだ本で、レポートの主な参考文献

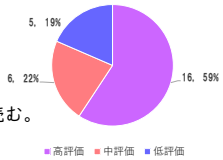
・『日本語は空気が決める』石黒圭　6名
・『菊と刀－日本文化の型－』R ベネディクト　4名
・『相席で黙っていられるか』井上優　4名
・『やさしい日本語－多文化共生社会へ－』庵功雄　4名
・『徹底比較　日本vs.韓国』高月靖　3人
・『日本の文化ナショナリズム』鈴木貞美2名
・『日本語で社会とつながろう』西俣美由紀他　1名
・『図説 神道－八百万の神々と日本人－』三橋健　1名
・『タテ社会の人間関係』中根千枝　1名
・『日本の文化』村井康彦　1名

高評価の学生のレポート　「日本の死生観」
学生ID ****　氏名****

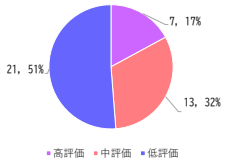
1、テーマに関心をもった動機や問題提起
外国人にとって日本独有の文化である切腹や戦時中の日本の特攻隊の作戦といった自ら命を絶つ行動はなかなか理解し難い行為であると思われる。実際、筆者が東京の千代田区にある靖国神社境内の遊就館に足を運んだ時、館内の一部の展示に衝撃を受けた。遊就館の館内では戦没者及び戦没者の家族の遺影、遺品・遺書が展示されており、もちろん、特攻隊員のものも含まれている。その中で、藤井という軍人の奥さんの遺書が一番印象深く残った。藤井の奥さん、ふく子は夫の後顧の憂いを無くし、安心して特攻隊に入隊できるために、幼い子供二人を道連れ自殺した。（後略）

4、テーマに関する私の意見
神道の死生観は仏教と共通しているものがあると思われ、キリスト教などとは大分違うと感じている。例えば、キリスト教では死後は天国か地獄に行き、「出直し」という転生の概念がないと考えられる。また、自殺した者は地獄に行くことになるため、自殺の行為は禁止されている。しかし、武士道における名誉が何より重要だという考え方は儒家思想の「主君殺不可辱（侮辱を受けるくらいなら、殺される方が望ましい）」と共通しているものがあると思われる。

今回、期末レポートの3段階評定（N＝27）
60%が高評価



＜参考までに＞
同じ学部、留学生対象クラス（N＝41）
その他の期末レポートの3段階評定



5　まとめ

今回の実践で、高評価が過半数を超えたのは、LTDによって、「社会的スキルと態度」を読書シートや書評シートの作成によって、「認知スキル」を発達させることができたためであろう。

今後の課題は、受講者にアンケート調査をするなどして、LTDや読書シート、書評シートの作成に対する満足度や有効性について明らかにしたい。

付記
本研究は科研費基盤研究（C）（課題番号17K02873、研究代表者　脇田里子）、及び、科研費基盤研究（C）（課題番号21K00637、研究代表者　脇田里子）の成果の一部である。

参考文献

楠見孝（2018）「リテラシーを支える批判的思考－読書科学への示唆－」『読書科学』第60巻第3号，pp.129-137.
国立教育政策研究所（2019）「OECD 生徒の学習到達度調査2018 年調査（PISA2018）のポイント」
バイラム・マイケル、細川英雄監修（2015）『相互文化的能力を育む外国語教育』大修館書店
安永悟・須藤文（2014）『LTD 話し合い学習法』ナカニシヤ出版
OECD（2018）The OECD PISA global competence framework.http://www.oecd.org/pisa/Handbook-PISA-2018-Global-Competence.pdf（2021.8.22閲覧）